

基礎案での記載箇所		章項目	5. 2. 4	ページ	p.37	行	10行目
事業名	琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(案)の検討		河川名				
府 県	流域府県	市町村	流域市町		地先		

●現状の課題

上水道用水の浄水場では、安全でおいしい水を供給するため、活性炭処理やオゾン処理等の高度処理が実施されていることを鑑みれば、生活環境に関わる環境基準を達成していることで満足するのではなく、さらなる水質の改善に向けた流域全体の意識改革が必要である。

●河川整備の方針

現在の水質汚濁防止協議会をさらに発展させ、自治体、関係機関、住民・住民団体と連携して、河川の流入総負荷量管理を図る琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称)の設立を検討する。

●位置図



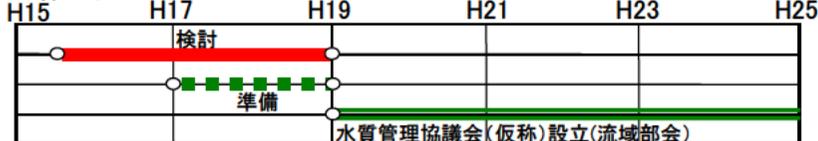
●具体的な整備内容

琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称)の設立に向けて準備会を設けて検討

・検討内容

- ・河川の特성에応じた、わかりやすい水質目標の設定
- ・関係機関等との情報共有の強化
- ・住民連携強化のための一層の取り組み
- ・油やその他の化学物質の流出事故防止・対処の取り組みの強化
- ・具体的アクションプログラムの作成とフォローアップ体制の検討

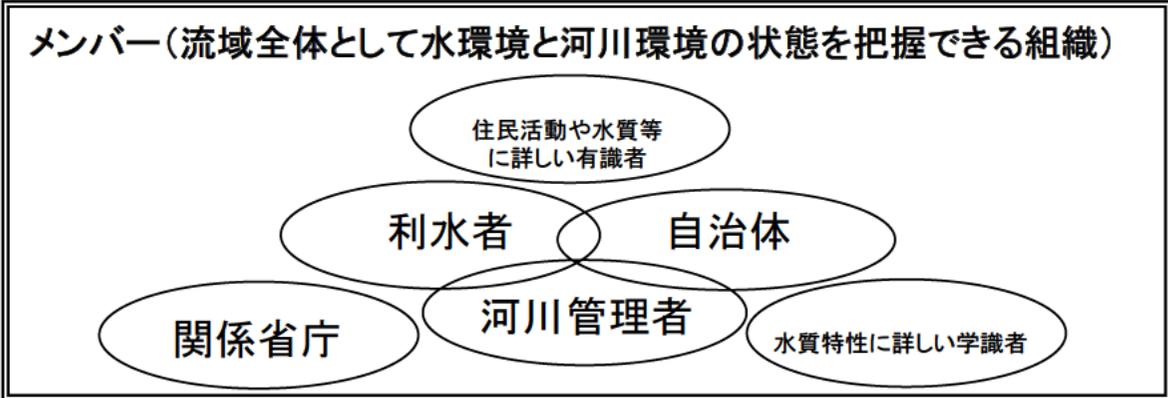
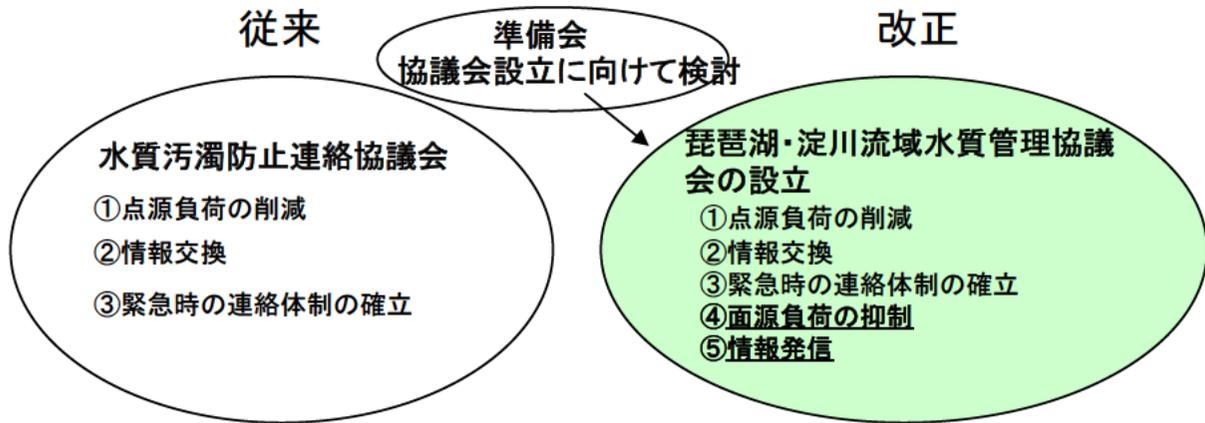
●全体スケジュール



○具体的なスケジュール



●平面図(機構図、体制図)



- 琵琶湖・淀川流域水質管理協議会で新たに下記の項目に取り組む
- ①河川の特性に応じた、分かりやすい水質目標の設定
 - ②関係機関等との情報共有の強化
 - ③住民連携強化にための一層の取り組み
 - ④油やその他の化学物質の流出事故の防止・対処の取り組みの強化
 - ⑤具体的なアクションプログラムの作成とフォローアップ体制の検討

流域全体として汚濁負荷を減少

新たな目標の設定: 流入負荷量の管理

新しい水質指標の検討(案)

人とのふれあい
(人の五感)

- ①泳げる水の確保
- ②水にふれあい、戯れる水辺の確保

飲み水としての
使いやすさ

- ①安全な水源の確保
- ②化学物質等の流入抑制と監視の強化
- ③水質事故の防止

生物の豊かさ

- ①豊かで固有の生態系の保全を可能にする水質の確保

流域の住民が連携して、新たな目標の達成に向けて取り組む体制を築く

協議会の参加メンバー(最終イメージ)

従来

利水者:(水道用水)
 自治体:(水道部局、環境部局、土木部局)
 関係省庁:(経済産業省)
 河川管理者:(近畿地方整備局)
 学識者:(水質等の専門家)

新協議会

利水者:(水道用水)
 自治体:(水道部局、環境部局、土木部局、**農林部局**)
 関係省庁:(経済産業省、**環境省**、**農林水産省**、**厚生労働省**)
 河川管理者:(近畿地方整備局)
 水質特性に詳しい学識者、**住民活動や水質等に詳しい有識者**

琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称)で取り組む事項

- (1) 河川の特性に応じた、分かりやすい水質目標の設定
 新しい水質指標の検討
 点源負荷の削減
 水質汚濁メカニズムの解明に向けた検討
 面源負荷の抑制方策、プログラムの作成 等
- (2) 水質の流域内監視体制の強化
 水質データの共有化(連携強化) 等
- (3) 協議会活動への積極的な住民参加を促すための取組
 環境学習の支援、情報発信 等
- (4) 油やその他の化学物質の流出事故の防止・対処の取組の強化
 事故対策強化、不法投棄防止の啓発 等
- (5) 具体的なアクションプログラムの作成とフォローアップ体制の検討

青字:新たな取組

整備効果

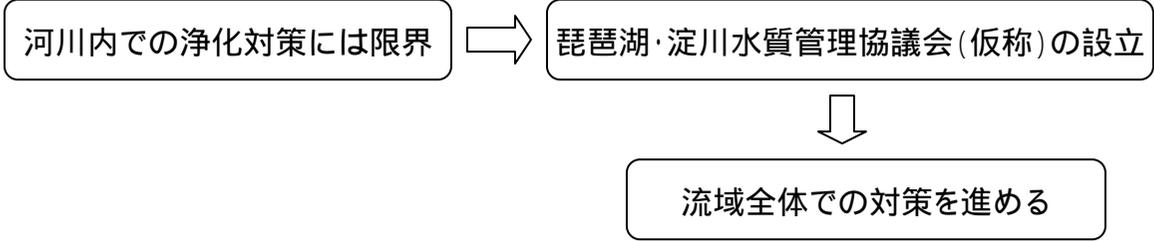
・面源負荷抑制のためには、住民一人一人の行動、意識向上が不可欠である。協議会に住民活動に詳しい有識者にも参加してもらい、汚濁負荷を減少させる対策など流域全体での取組を進める。

・環境基準を守ることはもちろんのこと、生態系からも望ましく、人が安心して水辺で遊べ、水道水源としてもより望ましく、わかりやすい水質管理を目指す。

提案理由(代替案含む)

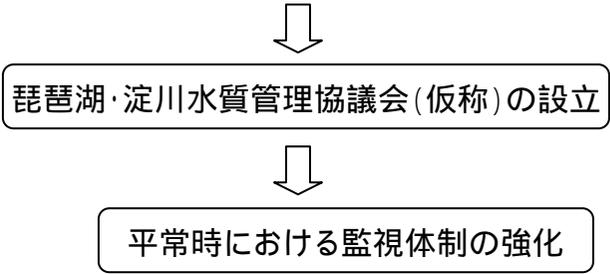
流域全体での取組強化のため、琵琶湖・淀川水質管理協議会(仮称)の設置が必要

わかりやすい水質目標の設定

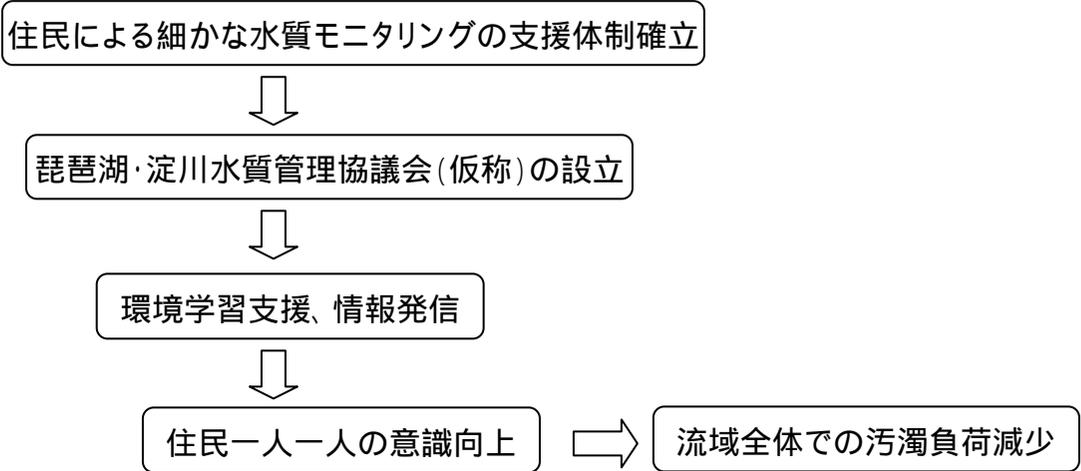


水質の流域内監視体制の強化

水質監視の強化		(現在の淀川水系における各種調査地点数)
ダイオキシン類調査(水質・底質)		32地点
主な環境ホルモン調査(水質)		9地点
" (底質)		6地点
水質自動監視装置の設置状況(測定項目:水温、DO、pH、濁度、導電率等)		
国土交通省		18地点
滋賀県		17地点
水資源機構		10地点
定期観測(水質)		119地点[地点により表、中、下層実施]
" (底質)		27地点
" (地下水質)		73地点



住民参加を促す取組



委員会等からの意見

- ・環境の時代にあっては、多様性をもった生態系の機能を十全に使うことが重要である。そのためには、水質管理のみではなく、環境保全のための協議会を作ることを計画すべきであり、その検討が望まれる。【琵琶湖部会】
- ・今後、本流域委員会で設置を検討中の「琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(案)」においては、既存の琵琶湖・淀川水質汚濁防止連絡協議会に設置されている「水質保全委員会」や「障害生物調査小委員会」等での活動の継続を念頭に調整の必要がある。【猪名川部会】
- ・基礎原案、基礎案ともに生物調査事項について触れていないが、長期的な琵琶湖・淀川の環境・水質を監視し、その保全対策を考える上では生物分野の調査を実施していく必要がある。【猪名川部会】

進捗状況

・「猪名川流域水環境管理ワークショップ」の実施

猪名川流域における適正な水質管理のための水環境改善計画作成に向けて、住民団体、学識者、流域自治体等と情報を共有してワークショップ形式で行った意見交換等を参考に、猪名川流域水質管理協議会準備会(仮称)のありかたについて検討。(モデルケース)

・「水質シミュレーションモデル」の構築

琵琶湖流域の水質シミュレーションモデルを構築

淀川流域の水質シミュレーションモデルを構築

木津川流域の水質シミュレーションモデル構築の方針を策定

猪名川流域の水質シミュレーションモデルを構築

進捗状況(写真・図面)

【猪名川流域水環境管理ワークショップ】



川歩き、水質調査の協働実施



情報共有・意見交換



●進捗状況(写真・図面)
【水質シミュレーションモデル】

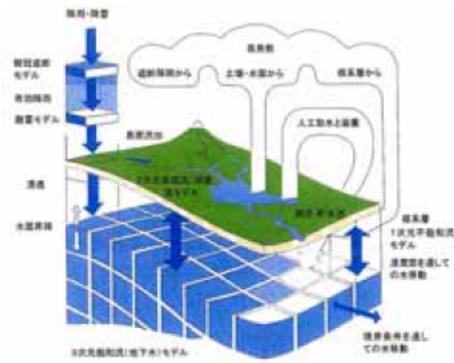


琵琶湖流域



淀川・猪名川流域

◇流域水・物質循環モデル

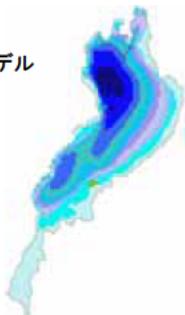


流入河川別
水量・水質

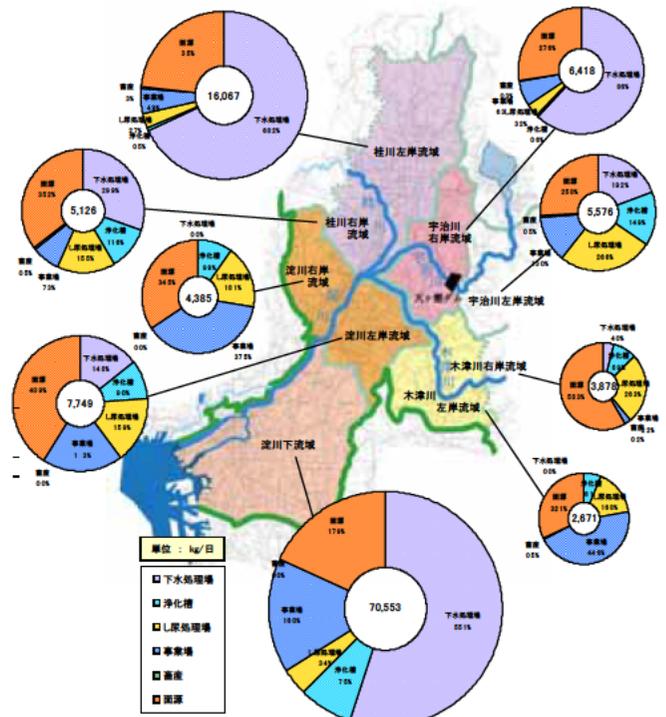
両モデルの結合

地下水量

三次元富栄養化モデル
(琵琶湖流域)



◇流域単位での負荷量(COD)特性の把握



●今後の見通し等

- ・琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称)については、「琵琶湖・淀川流域圏の再生協議会」の水環境に関する分科会の中で具体の枠組み等について引き続き検討。
- ・琵琶湖・淀川流域の水環境総合管理システムの構築。